

## 当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

この度、取締役会の実効性評価を実施いたしましたので、その結果の概要を公表いたします。

### 1. 評価の方法

取締役会の実効性に関する質問票をすべての取締役および監査役に配付し、回答を得ました。取締役および監査役の回答を踏まえ、取締役会は取締役会の実効性に関する分析および自己評価を行い、その結果を審議いたしました。

対象者：取締役（社外含む）、監査役（社外含む） 計 14 名

実施時期：3月末～4月中旬

回答方法：5段階評価+フリーコメント/記名式

評価項目：

- ①取締役会の全体評価について
- ②取締役会の構成について
- ③取締役会の運営について
- ④取締役会の議論の質について
- ⑤情報提供・トレーニングについて

### 2. 分析・評価結果の概要

アンケートの結果、「取締役会の運営」については、高いレベルで維持されており、取締役会において本質的な議論が行われていること、その他の項目も前年同様のレベルを維持していることが確認されました。また、当社取締役会の役割に鑑み、以下の観点から、取締役会全体としての実効性が高い状態で維持されており、コーポレートガバナンスは強化されていると判断いたします。

- ・多様な経験や専門性をもつ社外取締役が半数を占め、取締役会議長を社外取締役が務める等、取締役会の構成が適切に確保されている。
- ・各種説明会、役員研究会の実施等、社外取締役および監査役に対する十分な支援によって、取締役・監査役が経験や専門性を活かし、自由闊達に建設的な議論がなされている。

- ・委員長を社外取締役、かつ社外取締役全員を委員とする指名・報酬委員会と連携することで、後継者計画・育成について、共有され、議論されている。

一方、取締役会の実効性を高め、企業価値を向上し続けるために、以下の項目に取り組むべき課題と確認しました。

- ・資本政策等に関する議論の一層の拡充
- ・財務情報に加え、非財務情報のモニタリングの拡充

### 3. 評価の結果を踏まえた今後の対応

今回のアンケートの結果を踏まえ、取締役会で議論した結果、2020年度は、以下の項目に重点的に取り組むことを確認しました。

- ・中長期視点での経営戦略、資本政策等に関する議論の継続
- ・非財務情報やサステナビリティに関する情報共有と議論の拡充
- ・グループ全体に影響するリスクに関する予防的な議論の継続

当社は、以上の取り組みを行うことにより、引き続き、取締役会の実効性向上、コーポレートガバナンスの強化に努めてまいります。

#### ＜参考＞ 前回アンケート結果に対する取り組み

2019年度は前回アンケートの結果から、以下の項目に重点的に取り組むことを取締役会で確認し、取締役会の議論の質の向上と、実効性の向上に努めてまいりました。

- ・中期経営計画のモニタリング
- ・中長期視点での経営戦略、資本政策に関する議論の拡充

以上の取り組みの結果、取締役会で質の高い議論が行われました。引き続き企業価値向上のため、これらの議論を継続してまいります。

以上